

用語

日本語：香り 英語：Aroma

【定義】 良いにおいのこと。

【説明】 においの表記は快・不快や発生源の特徴によって様々であり，研究分野や商業分野ごとに十分には統一されていない現状にある。例えば檜崎¹⁾は，「におい」は良いにおいにも悪いにおいにも使用し，不快臭には「臭い」，快なおいには「匂い」を，化学物質成分を強調する場合には「ニオイ」，不快なニオイは「臭気」，快なニオイには「香気」を用い，心理面を重視する場合には不快側を「悪臭」，快側を「香り」の表記を用いることが多いとしている。その他，芳香や薫りなどの語もあって大変複雑な状況にあるが，香りという表記については室内環境の事典²⁾でも心理的に快側のおいについて使用されていて，当該分野ではおよその共通認識と言えそうである。

以前の室内環境に関する研究では悪臭対策に関する内容が大多数を占めていたが，建築基準法改正によるシックハウス対策の徹底や健康増進法改正に伴う原則屋内禁煙化によって室内のおい環境は改善傾向にあると考えられ，未だ問題は少なくはないものの悪臭対策の研究についてもやや減少傾向にある。代わって，室内芳香剤やアロマオイルの普及に伴う室内における香り利用として，心理的快適感を得ることだけを目的とするのではなく，知的作業効率の向上や作業に伴う疲労等の軽減，労働時の休憩効率の向上など狙った効果測定に関する研究や，企業イメージ香を用いたブランディングへの利用を目指した香りと印象評価の関係に関する研究が多く見られるようになった。半面，高強度の香りが不快感と捉えられたり，極小濃度の香りでも化学物質過敏傾向の方にとっては致命的な場合もあったりして，公の場での香りの活用に向けては多大な注意を要する側面もある。

1) 檜崎正也：におい 基礎知識と不快対策・香りの活用，オーム社，pp.26-27，2010

2) 一般社団法人室内環境学会：室内用語の事典 快適で健康な暮らしを支える科学，朝倉書店，pp.102-103，2023

【解説者】 竹村明久 所属：摂南大学理工学部住環境デザイン学科